

献辞

経済学部長 芝村篤樹

落谷硯児教授は、本年3月末をもって桃山学院大学を退任されることになりました。

先生は、新潟大学人文学部経済学科を卒業の後、大阪証券経済研究所研究員に就任され、その在職中に関西学院大学大学院経済学研究科に学び、博士課程を単位取得満期退学されました。本学には、1978年4月に経済学部助教授として赴任、1984年4月に教授に就任され、今日にいたるまで主に国際金融論を担当されました。

大学では数々の要職を歴任され、大学の発展に顕著な功績を残されたことは、多くの人々のひとしく認めるところであります。とくに、1986年4月から2年間にわたり経済学部長を務められ、文学部の設立、合同教授会方式の改編など、大学が新たな展開に向けて胎動しつつあった時期に、学部はもとより全学的な舵取りに寄与されました。

1991年には、初代の学長室長に就任され、移転事業実施本部委員も務め、大学の全面移転という大事業の遂行に、その中心となって活躍されました。大事業であっただけに、さまざまな意見・異見のあったのは当然のことですが、常にそれらに耳をかたむけ、学内の意思統一に情熱をもって当たられたお姿が印象に残っています。大学移転が比較的順調に実現できたについては、先生のこのようなご努力を抜きにはあり得なかったと思われまます。

先生は大学の要職を歴任される一方では、学生の教育、あるいは学生とのつきあいにも手を抜くことのない方でありました。この点で鮮やかに記憶に残る光景が二つあります。一つは、難波でゼミのコンパをやっていたとき、

隣の部屋が盛り上がっているのを見てみれば、落谷ゼミのコンパの最中でした。若い学生たちの輪の真ん中に、愉快そうな落谷先生がおられたのです。もう一つは大学祭の折り、昼間から大きな歌声がするので見に行くと、催しの一環であったのでしょう、学生と肩を組んで歌っておられる落谷先生の姿を発見しました。大学冬の時代を迎えている現在、このように学生を大切に
する先生から学ぶべきことは少なくないと感じたものでした。

先生の多年にわたる教育・研究上のご功績，ならびに大学行政へのご尽力
に対して，敬意と感謝をこめて「桃山学院大学名誉教授」の称号を贈り，あ
わせて経済学部は，経済・経営学会と協力し「落谷硯児教授退任記念号」を
刊行し，先生に献呈いたす次第です。

どうか退任の後もお元気で活躍され，後進への変わらぬご指導を心からお
願い申し上げます。